

地域発 防災ラジオドラマ in つくば いなほ幼稚園 地震編 2

「帰れない園児への対応と地域との連携」

前提条件メモ（読まない）

ある冬の平日、午前9時半ごろ、茨城県つくば市に直下型の地震が発生する。つくば市の震度は6・つくば市前野にあるいなほ幼稚園では、朝の登園時間にあたっている。幼稚園の関係者（職員・保護者）、地域の関係者が中心となって、災害発生当日を乗り切っていく。

第2話 登場人物（イメージ）役割（立場）

- ・園長先生（女性：年配の方）幼稚園全般の総責任者。
- ・教務主任先生（男性：若い方）幼稚園の実務的リーダー。元気な青年。
- ・君島（さとこ）先生（女性：若い方）あるクラスの担当。よく気がつく人
- ・若森（あゆみ）先生（女性：若い方）バスの添乗担当。この時点では園に戻っている
- ・本田先生（男性：中年）送迎バスのドライバー。ベテラン。園の力作業も受け持っている。

- ・清水さん（女性：若い方）子供を自家用車で園まで送ってきた母親。声が大きい。
- ・大貫さん（女性：若い方）子供を園バスで送り出し、自分はTXで東京に向かっている。（声の出演はない）
- ・酒巻さん（男性：年配の方）園児を迎えに来る祖父。
- ・神保さん（男性：年配の方）地域の避難所の運営委員・近在の農家の方。
- ・健太君（園児：男の子）
- ・みうちちゃん（園児：女の子）

解説（ナレーション：毎回共通）

独立行政法人・防災科学技術研究所では、災害時に地域に起きることを住民主体で考えるための方法として、地域の災害シナリオの作成を提案しています。災害シナリオは、行政が作成した各種災害の被害想定やハザードマップを下敷きにして、地域の「より細かい事情」を勘案して、災害時に実際に起きることを時間に沿って具体的に整理して記述したものを指しています。災害シナリオは、地域の関係者が具体的に自分たちの直面する事態を考える仕組みづくりのきっかけとなるものです。シナリオにすることで、事態の展開していくイメージが掴みやすくなり、必要な対応もわかりやすくなります。

プロローグ（ナレーション）

午前9時30分。茨城県南部に発生した直下型地震は、つくば市を中心に大きな被害を生じせました。いなほ幼稚園は震度6という強い地震に見舞われましたが、地盤の良いところに立地した耐震性の高い低層の建物であったため、幸いなことに大きな被害はなく、園児も全員無事が確認され、送迎中の園児も無事に全員が園に到着しました。間もなくお昼になろうとしています。しかし両親が共働きで都心や遠隔地に勤務しているケースでは迎えに来れないという連絡があったり、園からは連絡がとれないケースも出てきました。

【静かなオープニング】

園長先生：あと何人になりましたか。

主任先生：あと17名ですね。そのうち11名は午後3時にいつものようにお迎えに来られるようです。そのほかの園児ですが、残り5名は少し遅れるかもしれないけれど、今日中に必ず迎えに行くご連絡がありました。最後は・大貫さんのみうちゃんですね。

君島（さとし）先生：電話で連絡のあった大貫さんですが、その後もう一度連絡がありまして、会社のほうがだいいぶひどい状況のようで、今日は帰れないかもしれないとおっしゃっているようです。

園長先生：会社と家族とを、簡単に天秤にかけるわけにもいかないわねえ。

主任先生：僕は絶対家族ですよ！

それにしても東京も下町のほうでは、だいぶ被害が出ているようですよ。

園長先生：いずれにしても、子供たちを一か所に集めて、不安のないようにしておいてね。

君島（さとし）先生：わかりました。（部屋を出て行く）

戸が開く（効果音）

本田先生：園長先生、園内の施設の点検が一通り終わりました。一応大きな被害や使えない施設はありません。バスもすべて大丈夫です。

園長先生：ご苦労様でした。じゃあ保護者の方々にご連絡を差し上げて、明日からの園の方針を伝えてください。当面はご家庭の状況に応じて保育をしますが、出来るご家庭では1週間程度はご家庭での保育をお願いしますと伝えてください。問い合わせがあったら、この方針を伝えてください。

主任先生：はい、では。（部屋を出て行く：足音）

男性の声：ごめんなさい。

君島（さとし）先生：はい

男性：ああ、良かった。

君島（さとし）先生：どちらさまでしょうか。

男性：酒巻といいます。

君島（さとし）先生：酒巻様？

男性（酒巻）：はあ、こちらでご厄介になっている飯島健太の祖父です。

君島（さとし）先生：ああ、健太君のおじいちゃんですか。はいはい、ちょっとお待ちくださいね。

健太君！健太君！

（呼びに出て行く：足音）

廊下をかけてくる音。

君島（さとし）先生：あつ！健太君、走っちゃだめよ！

健太君：はい。あ！おじいちゃん。

酒巻：おお、おお健太。無事だったか。

君島（さとこ）先生：ご苦労様でした。お宅のほうは大丈夫ですか？

酒巻：ええ、うちは筑波山の山麓ですからなあ。地盤はいいんです。いや、たまたまね朝から土浦のほうに行つとつて、突然の地震でしょ。いやもうびっくりしたけど、家に帰つたらばあさんがね、娘から電話があつて、地震で電車が停まって健太を迎えに行けないから、替わつて行つてくれて。

君島（さとこ）先生：そうですか。ご苦労様でした。

健太：僕、おじいちゃん家行くの？

酒巻：そうだぞー、今日は何食べたい？

健太：うーん、カレー！

酒巻：なんだ、またカレーか（笑いながら）じいちゃんは苦手だなあ。

・

二人仲良く帰り支度を始める

主任先生：あと8名か。夕方までにみな帰れるかなあ。

園長先生：スタッフ全員を集めて、今晚の体制を相談しましょう。皆さんだつてご自宅が心配でしょうからね。

主任先生：そうですね。とりあえず山本先生と田中先生は小貝川に近い方向なので、揺れが大きかったみたいで、心配しています。園児もだいぶ少なくなりましたので、先に帰つてもらつてもいいでしょうか。

園長先生：そうね。残りのスタッフで大丈夫でしょうから、お二人には帰つて自宅の無事を確認して貰いましょう。家族には連絡がついているの？

主任先生：一応全員確認がとれました。皆さんメールでやり取りしているようですよ。

園長先生：すごいわねえ。メールやっていないのは私だけかしら？

主任先生：通話がつながりにくくても、メールは線が違うので、つながる可能性が高いと、聞いたことがあります。

園長先生：そう。じゃあ私もがんばりますか。

二人揃つて打ち合わせに向かう。

（ナレーション）

つくば市には地区ごとに学校や公民館などを中心に避難所が設けられています。いなほ幼稚園のある大穂地区には前野小学校、大穂中学校などの指定避難所と、大穂公民館などの予備避難所があります。予備避難所は原則として災害弱者を対象として必要に応じて開設されることになっています。

男性の声：ごめんください。

若森（あゆみ）先生：はあい

（少し間）

男性の声：こんにちは。園長先生はいらっしゃいますか。

若森（あゆみ）先生：はい、いまちよつと会議中なのですが。

男性の声：そうですか。私、前野小学校の避難所から来た神保といいます。

若森（あゆみ）先生：ああ、どうも神保さんですね。

男性の声：はい。

若森（あゆみ）先生：ちよつとお待ちください。

（少し間）

足音がして園長先生と主任先生がやってくる。

園長先生：あらあら神保さん。

神保：どうも御無沙汰しています。

園長先生：すごい地震でしたね。大丈夫でしたか？

神保：うちはね。家は古いが、まあ納屋が少しひびが入ったけど、母屋は無事でね。

園長先生：（神保さんを指して）こちらは前野小学校の近くの農家の方で神保さん。この幼稚園が出来た時に最初にお子さんを入れていただいたのよ。もう15年も前でしたっけ。

神保：そうですなあ。もう息子もこのあいだ成人式でしたよ。

園長先生：あつという間ですねえ。

神保：いやあ、園が地震で困っていないかと思ってね。いま前野小学校で避難所を開設しているんですよ。

園長先生：そうですか。避難者の方はたくさん来ていらっしゃるんですか。

神保：いやあ、大した数じゃないんだけど。ほら、テクノパークのところのそばの家で火事があつてね。地震では何ともなかったのに、大騒ぎでさ。

園長先生：それでさつきからサイレンの音がしていたんですね。

神保：誰も怪我はしなかったんだけどね。でも焼け出された人はとりあえず、小学校に来てもらったんですよ。それからいま水道が止まっていますね。ここは大丈夫ですか？

主任先生：今のところ大丈夫ですけど。心なしか水の出が悪い気がします。

神保：水の備蓄はあるんですよ。

主任先生：ええ、大丈夫ですよ。カンパンもあります。

神保：何か困ったことはありませんか。市役所から物資が届くそうだから。

園長先生：何かあるかしら？

若森（あゆみ）先生：今晚泊まりになったら寝具とかどうします。毛布やマットはありませんよ。

園長先生：そうねえ。・・・避難所に毛布とかあるんですか？

神保：あるある。たくさんあるよ。

主任先生：万一に備えて、少し分けていただいたらどうでしょう。

園長先生：園児で帰れそうにない子がいるかしら。

若森（あゆみ）先生：大貫さん家のみうちちゃんがまだわからないんですよ。ご両親からはもしかすると一晩預かっていただくかもしれないという電話があったきりです。

園長先生：困ったわね。でもこういう事態では文句は言っていられないわね。じゃあ毛布を少しお借りできますか。

神保：わかりました。食料は大丈夫ですか。

園長先生：カンパンはあるし、あとうちのスタッフが、さつき近くのコンビニまで行って、あるだけのものを買ってきたみたいだから・インスタント食品だけど。

主任先生：アレルギーのある子も、いまはいないと思いますよ。

園長先生：でもねえ。カップラーメンというわけにはいかないわねえ。

神保：米ならあるよ。うちにたくさんある。秋に収穫したばかりだから。

若森（あゆみ）先生：新米アレルギーがあるんですよ。

神保：新米アレルギー？何ですかそれ？

園長先生：そうねえ、古米なら大丈夫だけど、新しいお米だけはだめという子もいるの。難しいわねえ。でも今残っている子は大丈夫でしょう？

若森（あゆみ）先生：そうですね。みうちちゃんもアレルギーはありませんね。

主任先生：日本人はやっぱおにぎりですね！

神保：そうそう、米の飯だよ、こういうときは。パンじゃあ力が出ないね。それじゃ家から少し供出しよう。釜はあるかい？

若森（あゆみ）先生：ええ、ありますよ。

主任先生：それじゃとりあえず炊き出しだね。電気も回復したことだし、今夜に備えて多めに炊いておきますか。

園長先生：何か、皆さん元気になってきたわね。食べ物の影響は大きいわねえ。

（ちよつと間）

玄関で大きな声。

清水さん：あら先生！どうも。

園長先生：あれっ、清水さん、おかえりになったんじや？

清水さん：いえね、帰ったんですけどね。さつきみうちちゃんのお母さんから電話があつて、今日は家に帰れそうもないから、うちで預かってくれないかって。

主任先生：お知合いなんですか？

清水さん：家はちよつと離れているんですけど、主人と同じ職場なんですよ。

園長先生：あらあら、そうなんですか。

若森（あゆみ）先生：よかったですね。みうちちゃんだけが残っちゃうんじやないかって心配だったんです。

主任先生：でももしそうなら、僕が朝まで面倒みますよ。

園長先生：あらあら、主任先生は家庭第一じゃないんですか？

主任先生：いやいや、使命に燃える保育のプロですからね。

若森（あゆみ）先生：さつき奥様からメールが届いて、うちは大丈夫だからって連絡があったんですよ。

園長先生：そうなの、やっぱメールって便利よねえ。（笑）

明るい雰囲気。（音楽）

（クロージング：ナレーション：毎回放送）

このドラマは、住民をはじめ行政など地域のさまざまな関係者が協力して、災害時に想定される事態や対応について話し合い創作されたフィクションです。ドラマのシナリオづくりの過程では、地域社会の実態を調べ、かつ、行政の防災計画や防災体制、被害想定、ハザードマップ、マニュアルなどの公式な情報を参考にしています。社会的なシミュレーションとして、また、今後の改善の視点を盛り込むなどの理由から、意図的に事実と異なる設定をしている場合があります。

本ドラマに関するご意見、ご感想などを、独立行政法人防災科学技術研究所、またはラヂオつくばまでお寄せください。

第2話 終わり

了

配 役	氏 名
園長先生（女性）年配・穏やかな方	
主任先生（男性）若い方・家庭第一？	
君島（さとこ）先生（女性）若い方・よく気がつく	
若森（あゆみ）先生（女性）若い方・バス添乗	
本田先生（男性）年配・バスドライバー	
清水さん（女性）若い方・保護者・元気	
大貫さん（女性）若い方・保護者・都心勤務	
健太君（男の子）	
みうちちゃん（女の子）	
酒巻さん（男性）年配・健太君のおじいちゃん	
神保さん（男性）年配・避難所の役員	